

有近代未患痘痲之家、收蓄作常食、以預防毒氣、故舉世皆然焉。

〔和漢三才圖會百四〕**綠豆** 俗云夜衣奈利、又云不牟止字、○中略

按綠豆雖謂有利小便消水腫之功、性寒涼、多食則瀉下也、脾胃虛弱者最不宜食、赤小豆亦同、蓋此與本草有異矣、造蘗法、盛筐注水、覆藁一二夜、生白芽長數寸、

〔重修本草綱目啓蒙十七〕**綠豆** ブンドウ ヤエナリ 東國 トウロク 同上 マサメ 筑前 アラ

アヅキ 河州 フタナリ 薩州 サナリ 備前 バ、コロシ 同上 バコロシ 同上 ブドウ 同上

トウゴ 遠州 カツモリ 勢州 アヅキブンドウ 藝州

苗ハ赤小豆ニ似テ小ク、莢モ亦相似テ小ク、粒モ亦小ナリ、正綠色ナル者ハ官綠也、一名明綠異名物

綠色ニシテ、褐ヲ帶ル者ハ油綠ナリ、一名灰綠異名物、共ニ夏ヨリ秋マデ斷ヘズ實ノル、又早ク種テ

ミノリタルヲ再ビ種ユレバ、其秋又實ノリ、一年ニ二度實ノル故ヤエナリト云、集解ニ早種者呼

爲摘綠ト云ハ、ツミブンドウナリ、遲種呼爲拔綠ト云ハ、ヒキブンドウナリ、此粉ヲ藥用トス、綠豆

粉ト云、方書ニ眞粉ト云ハ、眞ノ綠豆粉ノ略ナリ、一名豆粉異名物、解裁 同上

〔成形圖說十八〕**二成豆** 大和風土記 綠豆即是

二苗**早成豆**、**八重成豆**、**眞小豆**、米は麻米を省ける也、**加通毛利粉豆**、本粉豆より字、**猴豆**、帯に宛然猿の面、**綠豆**、

開寶本、時珍云、綠以色名也、舊本作葉者非矣、**綠小豆**、和名紗、按に小綠豆中官綠、粒粗にして色鮮なる者なり、油綠、粒小にして色

摘綠、一名摘角綠、早く種、類に摘取る者也、**拔綠**、一名拔角綠、遅く種、類に摘取る者也、以上綱目及授時通考、**明藁**、**灰綠**、以上群芳譜、**蕃名**、**カテイ**

アンボーン、

此もの一歳に再び蒔て實を收るゆる、二成といふ、八重成も夏秋頻に實成を以て名けたり、毎日

に成實を摘採ものぞ、若怠ぬれば莢腐、子微して用に中らず、○中略、此もの即小豆の青きにて、又種

の早晚あり、子の巨細あり、色の淺深あり、各處の方名一からず、